

# 見直される同窓の絆 名門校ならではの結束力

鈴木隆祐 ●ジャーナリスト、「名門高校生」著者

東日本大震災では同窓の力が発揮された。中学や高校で同じ釜の飯を食った者の連帯は強い。名門校ならではの力がそこにある。

昨年3月の東日本大震災の被災地、東北最大の都市、宮城県仙台市には仙台一高、二高などのナンバーズスクールがひしめき、独自の校風から生まれた伝統行事等に市民が親しむ文化がある。とりわけ仙台三桜高校音楽部は、全国合唱コンクールの常連として有名だ。

それが伝統校は長く男女別学だったが、2008年にいつせいに共学化した。女子校では旧宮城一女が宮城第一、二女が中高一貫化し仙台二華、三女が仙台三桜と名称を改めている。

三女の音楽部は03年、地元銘菓「秋の月」のCMにOGのタカラジェンヌ、朝海ひかると共に出演して印象的な調べの校歌を歌い、森山直太郎のヒット曲「さくら」でもコーラスに参加して注目を集めた。

震災直後の昨年4月に行われた復興支援の街頭コンサートでは、現役の合唱団と、01年12月から活

動する宮城三女OG合唱団がそろって参加した。

後者は01年卒業の53回生のOGメンバーが発起。初めは指揮者も立てずに16人でスタートしたが、翌年からは卒業生メンバーのほとんどが参加し、現在では登録者数は200人超。03年、05年、07年、09年の全日本合唱コンクール全国大会一般部門に東北代表として出場し、いずれも金賞を受賞した実力派だ。

## 発

起メンバーで、母校の合唱団のボイストレーナーも務める声楽家の千石史子さんは、「高校時代の3年間、密度の濃い生活を共に過ごし、それを卒業と同時にパッと途切らせたくないという思いで、当時の部長の発案で始めました」と語る。

「私たちの代では、顧問の先生が代わり、指導法の違いなどに追いつけず、1、2年生時は全国大会に出られませんでした。しかし、

演奏会もいつも学校同窓会ぐるみで応援しています」

幼少からピアノを嗜んだ千石さんだったが、声楽は未経験。それでも、「とても有名でしたし、実際に入学式で聴いた先輩方の歌に大感動。即入部を決めました」と語る。最大の看板が、同校への志望理由でもあった。

宮城第一、仙台二華は進学校だが、仙台三桜は他にも新体操などが強く、元女子校らしい華やかさとアートに秀でる気風が強い。それらの技を脈々と受け継ぐ力も、学校選択の動機に数えられるのだ。震災後の支援活動では、高校でのつながりが迅速に機能した例が多々見受けられる。

山形県の米沢興譲館高校では、

同窓会が支援に動いた。石巻市立向陽小学校の校長である宇津江俊彦さんの高校の同窓メンバー（1978年卒）らが4月初めに現地入りし、救援物資を届けた。宇津江さんは回想する。「30年ぶりに会う人もいて、涙が出るほどうれしかった。しかも、私が向陽小に勤めていると人づてにたどってくれたようで……。当時は避難所として学校を開放し、教員一同連日の泊まり込みで対応に当たっていて、また、ガソリン不足で家に帰りたくても帰れない状況。そこへ200リットルのガソリンを届けてもらい、本当に助かりました」

米沢興譲館は1618年に創基された日本最古の藩校がルーツ。



山形の超伝統校、米沢興譲館は同窓会サイトでも向陽小支援を伝えた。同期生に扶まれ写真中央が宇津江校長

3年生では何が何でも出場を果たそうと団結。全日本合唱コンクールだけでなく、初参加のNHK全国音楽コンクールでも銀賞を受賞しました」

震災直後の昨年4月、仙台市の街頭に出て歌い、募金を呼びかけた宮城三女OG合唱団。海外での公演も多い本格派だ



進学実績も高いが、生徒会に当たる自治会をベースにオープンスクール（中学生のための高校体験）などさまざまな行事が生徒主導で進められる文化を持つ。その蓄積が震災ボランティアでも自然に発揮されたのだ。

## 支援基金をつくった 久留米大学附設高校

福岡県の久留米大学附設高校同窓会では、被災孤児の大学学費援助という長期的展望に立った支援を行っている。企業家の堀江貴文氏やタレント弁護士の本村健太郎氏など、多くの人材を輩出する名門校だ。

同窓会は校歌の一節「修羅道の世を救うべく」から取った「修羅救世有志支援」を内部で組織し、今年4月17日現在で支援金合計約315万円（支援者累計69人）を集めた。とりわけ被害が甚大だった岩手県陸前高田市内の高田高校に、支援対象の推薦を依頼。父を亡くし、今年から仙台の短大で医療事務資格取得を目指す女子生徒の援助を決めた。

まさに同窓会ぐるみで足長おじさんになったわけだが、4年間の支援を見込んでいたため、基金残金の一部は来年度の短大生へ回し、その推薦を同校にさらに依頼。前

## 石巻の小学校を支援した 米沢興譲館の同窓会

千石さんによれば、同校合唱団には生徒同士が教え合い、各人がパートリーダーや学生指揮などの役割を果たしつつ、厳しく運営していく伝統がある。

「それが変わらないので、部活指導に入っても楽。私だけでなく多くの先輩たちが様子を見に来ては心構えなどをアドバイスし、練習相手になっています。OGの定期



記2人に必要な240万円を除いた残金を、同市の長期教育支援基金に全額寄付している。

同窓会の輪を強化するのに役立つSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）は、震災を機に発展を遂げている。

## 千

葉県の市立千葉高校の出身者間では、学校同窓会とは別個に、旧校舍をデザインした震災復興支援Tシャツによる義援金寄付を企画。これが思わぬ反響を呼び、今年3月28日付で総販売枚数525枚、義援金総額も約80万円に達した。

このプロジェクトは、89年卒で当時生徒会長を務めた青木伸之さんが呼びかけて発足。たまたまこの学年は40歳になる節目で、昨年2月に学年同窓会を行っており、そこでの盛り上がりが一気にそちらに移った格好だ。しかし、なぜ母校の校舍がTシャツの柄なのか。「3年前に建て替わった新校舎は斬新な設計で素晴らしくはあるが、多くの同窓には旧校舎が懐かしい。それに市立千葉には、何かにつけチームでTシャツを作る伝統があったんです。同窓の団結を示すに決まりました」（青木さん）

同窓会への参加は、専門業者に依頼しネット掲示板も作って呼び